

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	14-093	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Patient-physician agreement on tobacco and alcohol consumption: a multilevel analysis of GPs' characteristics. 患者申告による喫煙および飲酒量に関する情報と医師の認識の一致性についての検討		
執筆者		
Thebault JL, Falcoff H, Favre M, Noël F, Rigal L.		
掲載誌		
BMC Health Serv Res. 2015 Mar 18;15:110. doi: 10.1186/s12913-015-0767-6.		
キーワード		PMID
臨床医、飲酒、喫煙、認識、一致性		25890044
要 旨		
目的： 喫煙および飲酒に関する情報は多くの研究において必須事項となるが、その情報が患者申告によるものか、医師からの情報かによって、また、医師の特性によって異なる可能性がある。患者申告による喫煙および飲酒量に関する情報と医師の認識の一致性について明らかにする。		
方法： パリに在住する一般臨床医 52 名を対象に、各々の患者 70 名（40－74 歳）を無作為抽出し、患者自身および担当医から、喫煙および飲酒習慣に関する情報を自記式質問票で収集した。医師からは医学研修、専門性に関する情報も得た。		
結果： 合計 2,599 人分の患者情報が、患者自身および担当医から得られた。患者自身と担当医の認識の一致率は、喫煙状況が 60.4%、飲酒情報は 48.7%であった。喫煙者管理についての研修経験のある医師や高血圧管理の専門医は、喫煙状況の認識の一致率が高かった。大学での指導経験者や、飲酒者管理の専門医は、飲酒状況の認識の一致率が高かった。		
結論： 喫煙者や飲酒者管理についての研修経験、専門性は患者申告による喫煙および飲酒量に関する情報と医師の認識の一致率を上昇させる。よって、喫煙者や飲酒者管理の研修は疫学研究的の質の向上に重要である。患者の喫煙および飲酒量に関する情報を医師から得る場合は、医師の特性を考慮する必要がある。		